



飯田市は、初めての取り組みとして八月二十八日(土)から三十日(月)にかけて、南アルプス国立公園 兎岳(飯田市・静岡市葵区所在、標高一八八七)のお花畑をニホンジカの食害から守るため、防鹿柵の設置作業を行いました。

飯田市は、初めての取り組みとして八月二十八日(土)から三十日(月)にかけて、南アルプス国立公園 兎岳(飯田市・静岡市葵区所在、標高一八八七)のお花畑をニホンジカの食害から守るため、防鹿柵の設置作業を行いました。

皆さんは、アレチウリをご存じですか？アレチウリは、外来植物(北米原産)、ウリ科の一年生植物です。同じウリ科植物であるキュウリやカボチャに似た葉っぱと巻きヒゲが特徴です。アレチウリは繁殖力が強く、これが侵入した土地は一面アレチウリで覆い尽くされることとなります。他の在来植物が壊滅状態に追いやられてしまうことから、河川環境

右折する場合は、方向指示器の点灯も必要のため電源は入れたままとする。また、交差点で信号停止した先頭車は、反対側の信号が黄色になったら、ニュートラルのままでもエンジンかけ、後続車は、動けるタイミングを計ってそれに間に合うようエンジンがかかる。スタートする際は、五秒で二十km/時になるよう緩やかに加速する。これらを実行するためには、目の前の車だけでなくその前方までの状況把握して運転しなければ確信はできません。この指導に従った結果、リッター当たりの走行距離が二十二%改善されました。



- ① 確実に根から抜き取る。
- ② 一年に複数回抜き取る(六・七・九月の三回駆除できればベスト)。
- ③ 種をつける前に抜き取る(できるだけ小さいうちに抜き取る)。
- ④ アレチウリが現れなくなるまで数年間続ける。今年も統一行動日である七月二十五日を中心に、県下各地でアレチウリ駆除活動が行われました。なかなか理想どおり駆除できるものではありませんが、県では、今後も大勢の方に御協力いただき、駆除を進めていきます。(伊藤主任記)

アレチウリとの戦い

今後も継続実施

市からの参加もありました。二十八日は林道を車で移動し、朝六時過ぎから登山道に入り、兎岳避難小屋までは約六時間かかりました。

防鹿柵の設置場所は、タカネビランジ、イブキジャコウソウ、タカネコウ

南アルプスの高山植物を守る

お花畑に防鹿柵設置

飯田市は、初めての取り組みとして八月二十八日(土)から三十日(月)にかけて、南アルプス国立公園 兎岳(飯田市・静岡市葵区所在、標高一八八七)のお花畑をニホンジカの食害から守るため、防鹿柵の設置作業を行いました。

お花畑の踏み荒らしを防ぐため、最小人数の十三人の人員が自炊により二泊三日で行いました。メンバーは、遠山山の会会員、ボランティアの方、南信森林管理署、伊那市、飯田市の職員により構成し、遠くは茨城県つくば市、埼玉県東松山市からの参加もありました。二十八日は林道を車で移動し、朝六時過ぎから登山道に入り、兎岳避難小屋までは約六時間かかりました。

リレーメッセージ

南信州で生きていくと「エコ」。

地球温暖化防止活動推進員

杉浦 歩実(飯田市)



～日本一の谷を眺め、おそうじ活動～

ものすごく早いスピードで急成長してきた社会。あふれんばかりの便利なモノの中に生活している私たち。ふと気付けば、その生活のサイクルに追われ、いつかはなくなっていく資源のこと、循環された自然があつてこそその資源のこと、その資源を守り続けてきた人々の存在。モノの豊かさとは逆に、心の豊かさが忘れられ、大切なことを置き

間と共に水、森、山、農、人として、循環をテーマに様々な活動をしてきた。自然と共に生きる社会環境を創っていく中で、何も分らない私たち次世代の役割は、まず、先人の方々へ生き方を学び、経験、知恵を引き受け、同世代に伝え、そして、また次の世代に伝えていくことだと活動を通して見えてきた。自然と向き合い、命をかけて生きて

去りにしてしまいうる毎日。このままではいけないと、誰もが今、感じているからこそ「日本一の谷・命のオアシス・文化の宝庫 南信州」私たちの生きるこの地域から、生きるために必要な資源を大切にしたい。社会に広げ、伝えていきたい。その想いを共有する仲間と共に水、森、山、農、人として、循環をテーマに様々な活動をしてきた。自然と共に生きる社会環境を創っていく中で、何も分らない私たち次世代の役割は、まず、先人の方々へ生き方を学び、経験、知恵を引き受け、同世代に伝え、そして、また次の世代に伝えていくことだと活動を通して見えてきた。自然と向き合い、命をかけて生きて

きた先人たちの生き方そのものは、自然と共存していくための教えであるということ、そして、その折、飯田地球温暖化対策地域協議会が主催している「南信州エコドライブ千人プロジェクト」が実施されることになったため、下伊那地域の機関は、これに参加することに。七月下旬にエコドライブ講習会を体験してきました。なお、アジマ自動車学校は、交通エコロジー・モビリティ財団からエコドライブ講習会について認定されている県内二校のうちの

の生き方が南信州の文化であるということ。今、私たちがやるべきことは、ここにある。

九月に入り、朝晩を中心に涼しくなり、やっと秋らしくなってきましたが、今年は暑い夏でした。気象庁の統計によると、飯田測候所(飯田市高羽町)では、八月の月平均気温が観測史上第一位となる二十六度七分、最低気温も八月二十四日に観測史上第一位タイとなる二十四度五分を記録し、記録の上で暑い夏であることが裏付けられました。また、九月に入っても、九月四日に三十六度一分の猛暑日を観測するなど、残暑も厳しい夏でした。この暑さで体調を崩されたら、地球温暖化を実感された方もいるのではないのでしょうか。全てが温暖化の影響であると言いつつ、切実な状況の中で、私たち一人ひとりが意識を持ち、身近なことでできることから取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。(矢崎記)

エコドライブ講習会体験記

県では、長野県地球温暖化防止県民計画において、温暖化防止の取組みの一つとして「エコドライブの普及」を掲げ、広く県民にエコドライブの実施をお願いしており、その模範として県職員が率先して取り組む事が重要と考えています。

その折、飯田地球温暖化対策地域協議会が主催している「南信州エコドライブ千人プロジェクト」が実施されることになったため、下伊那地域の機関は、これに参加することに。七月下旬にエコドライブ講習会を体験してきました。なお、アジマ自動車学校は、交通エコロジー・モビリティ財団からエコドライブ講習会について認定されている県内二校のうちの

右折する場合は、方向指示器の点灯も必要のため電源は入れたままとする。また、交差点で信号停止した先頭車は、反対側の信号が黄色になったら、ニュートラルのままでもエンジンかけ、後続車は、動けるタイミングを計ってそれに間に合うようエンジンがかかる。スタートする際は、五秒で二十km/時になるよう緩やかに加速する。これらを実行するためには、目の前の車だけでなくその前方までの状況把握して運転しなければ確信はできません。この指導に従った結果、リッター当たりの走行距離が二十二%改善されました。

九月に入り、朝晩を中心に涼しくなり、やっと秋らしくなってきましたが、今年は暑い夏でした。気象庁の統計によると、飯田測候所(飯田市高羽町)では、八月の月平均気温が観測史上第一位となる二十六度七分、最低気温も八月二十四日に観測史上第一位タイとなる二十四度五分を記録し、記録の上で暑い夏であることが裏付けられました。また、九月に入っても、九月四日に三十六度一分の猛暑日を観測するなど、残暑も厳しい夏でした。この暑さで体調を崩されたら、地球温暖化を実感された方もいるのではないのでしょうか。全てが温暖化の影響であると言いつつ、切実な状況の中で、私たち一人ひとりが意識を持ち、身近なことでできることから取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。(矢崎記)

編集後記

がります。(今村記)

希少種の保護と地域とのつながりについて

希少野生動物植物保護監視員

南坂 博和 (大鹿村)

私たちが暮らす南信州には、沢山の植物や動物が生息しています。希少種に限らず、それらを守っていくには、地元の方々の理解と協力が不可欠ではないでしょうか。希少種などの保護活動をしていると、地域の方が実施している活動と、心ならずも対立してしまう場面があると思います。その際、頭ごなしに「法律違反してるからダメ」と言ってしまった場合、相手はどのような気持ちになるでしょうか？

一般の方々に、県の条例やましてや種の保存法などを理解している人は非常に少ないと思います。なぜ希少種や地域に古くから生息している種の保存が必要なのか、外来種の持ち込みはどのような影響があるのか、私たちがも伝える努力が必要ではないでしょうか。



に違いは無いと思います。この二つが一緒になったらすごい力を発揮すると思いませんか？

先日、大鹿小学校から依頼があり6年生とその保護者を三伏峠に案内しました。三伏峠のお花畑で実施されている高山植物の保護活動を紹介しました。子供たちの真剣な表情が非常に印象的でした。今後も貴重な地域の自然環境を次代に引き継げるよう地域の方々との協力しながら努力していこうと思います。

不法投棄監視パトロール

不法投棄監視連絡員

嘉寺 耕作 (阿智村)



私は、国道256号と行き止りのある村道や林道を監視区間として巡回しています。今年、この区間に写真掲載のゴミの投棄がありました。場所は、清内路トンネル入り口付近です。量が多かったため、このゴミは、阿智村一斉のゴミゼロの日

に地域の皆さんに協力を頂き片付ける事が出来ました。この場所は、あまりに草が多くその後においても再びゴミが捨てられている心配があったので、私が思い切った草刈をしました。それが功を奏したのか、それ以降は、まとまったゴミ捨てもなくりました。当地域には、お陰様に大きな家電製品といった廃棄物はありません。その代わり、相変らず一般ゴミのポイ捨ては後を絶ちません。信州への入り込み客が多くなり、特に野外活動が盛んになる夏休み・お盆休みにおいて、訪れた人たちに信州の自然を少しでも気持ちよく満喫してもらえようとする巡回に力を注いでいますが、それでも一般ゴミの不法投棄は一向に減りません。投棄する人たちのモラルが大変残念でなりません。私たちが地球全体の大自然を考えれば、もっと自然と環境のことを考えれば自然と向き合えると思

ます。一人の力は小さいものです。環境を良くするため多くの皆さん方が協力いただくことでそれ

二ホンジカの食害 その後

希少野生動物植物保護監視員
成澤 宏長 (飯田市)



網が破られ穴に

以前「遠山郷のサクラソウ」(第六号)で鹿除けネットの設置について記しましたが、最近の鹿の食害は更に変化し、今まで有毒又は嫌いな味とされてきた草をも食する現象が多々見られます。その例として、毒草であるトリカブトやタケニグサなどの若芽が食われ、今までの食害されなかった希少種のヤマシヤクヤクやペニバナヤマシヤクヤクは、花だけでなく葉までが食され、今後、植生の減少になるのではないかと危惧されるどころです。さて、サクラソウの防護柵はその後どうなったか・・・残念なこと

自転車に乗りまいか

地球温暖化防止活動推進員

北澤 拓 (飯田市)

地球温暖化防止には、自転車が有効であることは皆さんもご存じのとおりです。自転車の最も良いところは、まず健康に寄与します。何といってもおなかへこみ、太ももが引き締まりお尻がきゅつと締まります。毎日お酒を飲んでも、自転車で通勤(往復10km位)していれば、大丈夫です。ランニングなどで起こりやすい膝等の関節を痛める心配もありません。季節の移ろい



も感じられ本当にエコロジィなのです。多くの人に「飯田は坂道が多いので自転車はダメ」と言われますが、ちよつと工夫すればそんなにムリなく利用できます。次の事項を参考に。自転車はママチャリと決め込まないで、クロスバイク(ロードバイクとマウンテンバイクの中間の機種)を選んでみてください。ピンキリですが、安いものより少しお金を出すと失敗がありません。クロスバイクで通勤も遠足(ロングライド)というには近い距離も大丈夫です。自転車には、毎日なくてもいいので十五分位乗ると、直に慣れて三十分位平気で乗れるようになります。ゆつくり走っても風が当たるので気持ちよく走れます。自転車のギヤは少し軽めにしておいてみる。回す感で乗ってみたいからと重たいギヤ

を踏むと疲れがすぐに溜まります。

ところで、本年六月十二日には、飯田市役所自転車部十二名が飯田市役所から駒ヶ根駅までサイクリングをし、飯田線で帰って来ました。片道約四十二kmを中高年と還暦間近の人びとでもちゃんと行くことができました。ちなみに、一部員である

遊歩道脇の植樹

自然保護レンジャー

中島 逍遙 (飯田市)

気になることがあります。私の住む伊賀良の西部山麓を通る「信濃路自然歩道」の脇に、数年前に植樹されたと思われる「モミジ」や「シダレザクラ」が成長して、目立ち始めております。

歩いておられますと、違和感があり、不自然な感じがするのは、「自然歩道」とは、自分の足で、ゆつくりと歩きたり、自然形成された、森や林(人工林も含む。)や川などの、その自然を楽しむ、眼にふれる植物の名



市長は、往路と帰路プラス約10kmを自走しました。やっぱり日頃ちよつと乗っているのが良かったのかも・・・。これからは自転車に乗るのにとっても良い季節です。とりあえず乗ってみまいか自転車で、いいこといっぱい見つけられるで大変なこと

前を調べたり、野鳥の鳴き声に耳を傾けたりする、自然そのままの場所だと思っております。その歩道に沿って、かつてなかった樹木を、しかも、ほぼ等間隔に植樹してあります。「モミジ街道」や「サクラ街道」にするのであれば、話しは別です。しかし、「自然歩道」であるなら、周辺の自然を最優先にすべきと思うのです。

如何なものでしょうか。 ※信濃路自然歩道のうち、下伊那地方で整備済みの主な経路地
園原―富士見台―清内路―梨子野峠―鳩打ち峠―沢城湖―梅ヶ久保公園―妙琴公園―八王子公園

一般的にこれら防護柵に使われる金属製のネットは十センチ目が多く使われますが、これを四センチ目以下のネットにすることが被害の状況から見ても有効であると思われませんが、コストの上昇が避けられません。今後、こうしたことを考慮した更なる取り組みが必要だと思います。



八王子公園のタムラソウ



歩道脇のショウジョウバカマ

―瑠璃寺―隣政寺―松原高原―上伊那郡へ